



日本共産党議員団  
2014.9.18. NO.1257.  
ご相談はお気軽に  
TELとも 3905-0970  
さがらとしこ事務所  
赤羽北3-23-17  
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)



南	正	先週の	西川はまちか	いその葉?	赤いピーマン	今週は
訂正です	くは	はまち	から	いながら	と	は

●秋祭りや敬老会、そして身近な農園をぶどう狩り。  
連休のあとは、各委員会から決算特別委員会へと走ります。

## 旧赤羽警察署 敷地(赤羽2丁目)に 認可保育園

都有地活用、日本共産党の提案実る



赤羽2丁目の旧赤羽警察敷地に120～140人規模の認可保育園が建設されることが明らかになりました。

田端駅前に続き、日本共産党が提案してきた、都有地を活用した保育園の2例目となります。開設は2016年4月の予定です。

のあわただしい毎日ですが、夜はぐっすり眠れますね。

今号は、写真が多い1面と、裏面は、私の質問原稿なので、文字ばかりとなってしまいました。

読みにくいくらいもあると思は  
ずが、本会議を傍聴してくださ  
た方々から、「原稿をぜひ」という  
お声をいただきましたので、よろしく。

「北園小の計画説明会では、  
区立シリバヒアと特養ホーム保育園  
2つの計画をきちんと説明します。」  
9/17(水)企画・総務委員会、共産党の質問に対する



秋ナハナハ

↑<上の写真>赤羽西5丁目の都営住宅で  
<右の写真>やまとき荘と桐丘児童館の  
秋祭り敬老会の子どもたち



旧北園小裏  
法面補強工  
型枠工法の様子

●先週お知らせをした、区営シリバヒア住宅「ブロックプラン」について、建設委員会と企画・総務委員会での質疑がありました。



さがら事務所前で  
ミニバザーを行います。  
9/23(日) 10時～11時

## 来年は終戦から70年 軍都から平和都市北区のあゆみ 次世代にどう継承していくのか 北区の決意を問う

安倍自公政権による集団的自衛権行使容認の閣議決定強行は、区民にあらためて「戦争への道は許してはならない」の決意を奮い立たせています。それは、明治から昭和20年8月15日の終戦まで、戦争に次ぐ戦争の末に、やっと手にした平和と、戦争放棄を世界に誓った日本国憲法を、時の政権が解釈で変え、日本を再び戦争できる国にしようとするごとに憤りです。

## 明治5年赤羽の台地に火薬庫 そして北区面積の1割にも

これまで、「平和都市宣言」のあとには区民の戦争体験文集「真っ赤な空は忘れられない」を、戦後60年の年には、写真集「戦後60年・写真で語り継ぐ平和の願い」などが発行され、今もなお多くの区民に活用されています。今年の夏は、区主催の「日中不戦の誓いの平和女神像」建立から40周年を祈念するつどいがおこなわれ、また、区民の手による「平和のための戦争展」は20回を数えるなど、さまざまな取り組みが重ねられてきました。

全国的にも、富岡製糸工場の世界遺産登録とNHK朝ドラ「花子とアン」が大きな話題となり、戦争と平和を考える機会が多かった夏でもありました。

富岡製糸が開業された同じ年、明治5年には赤羽の台地上に陸軍の火薬庫が設置されます。日本初の洋紙製造をはじめとする近代産業化の一方で、滝野川村に火薬製造所、赤羽台には近衛師団、第一師団工兵第一大隊が置かれ、大正に入ると本所（墨田区）から陸軍被服本廠が移転してくるなど、わたしたちのまちは、軍都としての歴史を刻むことになりました。明治、大正、昭和と拡大をつづけた軍関連施設は、現在の北区の面積の約1割に相当するほどでした。

## 敗戦後に連韓・韓が進駐、1950年の朝鮮戦争

1945年の日本の敗戦、その後、連合軍として、赤羽台の陸軍被服本廠には約1500名のアメリカ兵が進駐し、現在の中央文化センターは米軍地図局として、赤羽西5丁目の赤羽自然観察公園のある場所は、米軍のTOD、東京兵器補給廠とされました。

一方、この時期は軍事施設の転換もおこなわれ、赤羽台の近衛工兵隊跡には国立王子病院が移転して開設されます。現在は東京北医療センターとなっています。

1947年、王子区、滝野川区が合併して北区が誕生しますが、その直後に朝鮮戦争です。地図局はもちろん、TODは戦車修理工場として、再び米軍がわがもの顔で横行しました。

誕生したばかりの北区にとって、この広大な軍事施設を解放させ、跡地に住宅、学校、病院、公園などをつくり、平和な日常をとりもどすことが区民の切実な要求でした。

朝鮮戦争が終わると、火薬庫跡には都営桐ヶ丘団地建設がはじまり、その後、被服本廠跡には日本住宅公団の赤羽台団地がつくられてゆきました。

## 今度はベトナム戦争 米陸軍王子野戦病院開所

アメリカによるナヒ爆撃で、米軍の負傷兵が激増 ヘリコプター北区へ

朝鮮戦争の戦火が消え、ほっとしたのもつかの間、今度はベトナム戦争です。

1965年、アメリカが北爆を開始したことによってベトナム戦争は長期化し、米軍の負傷兵が激増します。すると米軍は、地図局跡と自衛隊十条基地のある場所に、米陸軍王子野戦病院を「抜き打ち開所」しました。1968年3月18日のことです。前の年に提出されていた北区議会全議員連名の反対決議、女性たちのエプロン行進・風船デモ、野戦病院設置に反対する3000人の区民集会など、北区をあげての野戦病院反対世論を押し切って、野戦病院開設を強行したのです。この日から、ベトナムから負傷兵を輸送するヘリコプターの爆音が激しくなり、こどもたちは勉強ができない、マラリヤ患者の発生、脱走兵の民家への侵入、野戦病院から出る下水問題など、隣接する中学校や病院、女子大学、養護学校、都営住宅などから不安の声が上がります。こうしたことから、区長を先頭にした「キャンプ王子跡地解放運動北区民協議会」の結成など、区民運動の広がりと革新都政の誕生が大きな力となって、野戦病院はついに閉鎖へ。その跡には中央公園文化センターや、障がい者スポーツセンターが建設されるなど、軍事施設の解放と区民利用を求める運動は続いてゆきます。

以上ご紹介したように、まさに北区の歴史は、軍都から平和都市への歩みでした。

侵略戦争が終わり、平和憲法ができたあともなお、軍都だった北区はアメリカの引き起こす戦争の渦中に置かれていたこと。いまの平和な日常は、実は、区民の長いたたかいの歴史の中で実現されたことなのだということを、決して忘れてはならないと思います。

そこで、質問します。戦争の歴史とともに、戦後70年にわたる、区民の平和を希求する歴史をも次世代にしっかりと引き継ぎ、戦争への道は許さないという自治体としての決意を示して頂くことです。区長の前向きな答弁を求めます。

△区長の答弁△

2014.9.18.午後1時57分

区長 平和都市北区のあゆみを、次世代にどのように継承していくのか、というご質問にお答えします。

△案内の通り、北区では昭和六十一年

三月十五日に、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、平和都市であることを宣言するとともに、平成二十三年二月一日には、平和市長会議にも加盟いたしました。

そしてこの平和都市宣言に基づき、平和の尊さを改めて周知・啓発するため、毎年、北区平和祈念週間等において、区民の皆さんとともに、

様々な事業やイベントを実施しております。真の平和と安全を実現することは、私たちの願いであり、人類共通の悲願であります。

今後も平和で自由な共同社会の実現に向けて、引き続き努力をしてまいる所存です。